

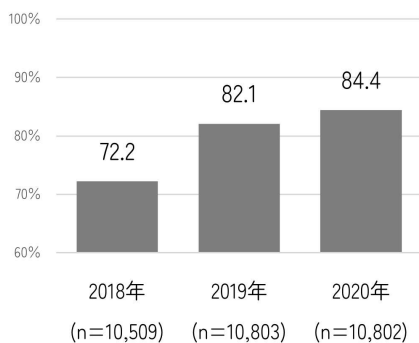
(補足資料) こども食堂の認知率と子どもの参加経験率

2024年11月22日

◇こども食堂の認知率は、91.4%となり、今年初めて9割を突破

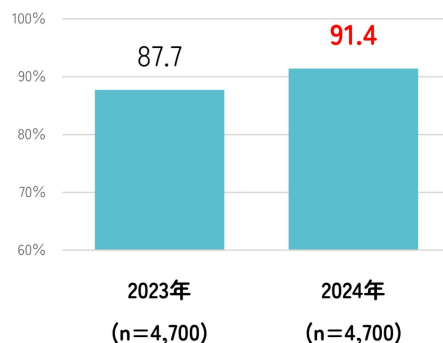
2024年6月に実施した、こども食堂の認知調査では、こども食堂の認知率（名前を聞いたことがある）は91.4%（前年87.7%）でした。調査対象が少し異なりますが、インテージリサーチが2018年～2020年に行った同様の独自調査では、2018年時点の認知率は72.2%でした。その後徐々に上昇を続け、今年、初めて9割を超えたこととなります。

(参考) 「こども食堂」認知率の推移
(2018～2020年)



※株式会社インテージリサーチ調べ
※調査対象：全国16～79才男女。H27年国勢調査人口構成比に応じて、エリア・性年代・未婚を割付した約10000人
※認知率：「名前を聞いたことがあり、内容も知っている」「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」合計

「こども食堂」認知率の推移
(2023年、2024年)



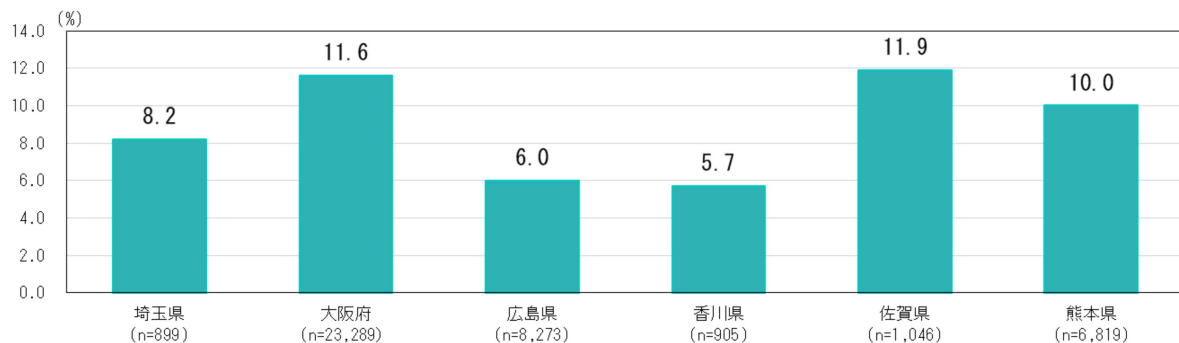
※むすびえ調べ
※調査対象：全国15～79才男女。各都道府県ごとに男性50人、女性50人の計4700人。R2年国勢調査の人口構成比でウェイトバック集計を実施
※認知率：「名前を聞いたことがあり、内容も知っている」「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」合計

* 2024年度こども食堂に関する認知調査 <https://musubie.org/news/10472/>

◇こども食堂を利用したことがある子どもは、小5・中2で5～10%程度を占める

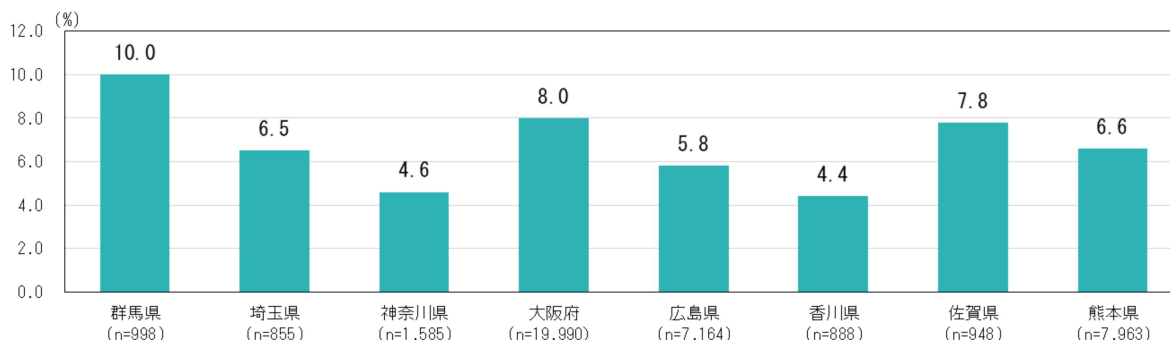
2023年以降に各府県で実施した子どもの生活実態調査等の結果から、こども食堂を利用したことがある子どもの割合をみると、小学5年生では5.7～11.9%、中学2年生では4.4～10.0%となっており、概して5～10%程度を占めています。

こども食堂を利用したことがある小学5年生の割合（府県別）



* 2023年以降に子どもの生活実態調査等を実施し公表している府県のデータを参照しています

こども食堂を利用したことがある中学2年生の割合（府県別）



※参照した府県調査は以下の通り（調査名及び調査時期）

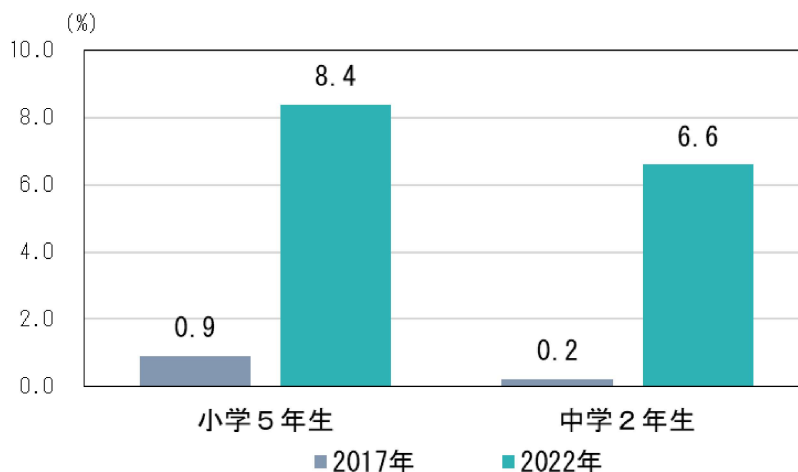
- 群馬県：令和5年度群馬県子どもの生活実態調査調査（2023.12～2024.1）
- 埼玉県：埼玉県子供の生活に関する調査（2023.7）
- 神奈川県：令和5年度神奈川県子どもの生活状況調査調査（2023.8～9）
- 大阪府：令和5年度子どもの生活に関する実態調査（2023.9）
- 広島県：広島県子供の生活に関する実態調査（2023.6～12）
- 香川県：香川県子どもの生活状況調査（2024.2～3）
- 佐賀県：令和5年度佐賀県子どもの生活実態調査（2023.12～2024.1）
- 熊本県：熊本県子どもの生活に関する実態調査（2023.8～10）

上記の調査からのデータはすべて子ども（小学5年生・中学2年生）を対象とした調査の結果

◇こども食堂を利用したことがある子どもの割合は増加傾向

令和4年度（2022年度）八王子市子どもの生活実態調査報告書によると、こども食堂を利用した子どもの割合は、2017年から2022年にかけて、小学5年生では0.9%が8.4%、中学2年生では0.2%が6.6%まで増加しています。

こども食堂を利用したことがある子どもの割合の推移（八王子市）



※令和4年度（2022年度）八王子市子どもの生活実態調査報告書より

（上記グラフのデータは、小学5年生及び中学2年生の保護者を対象とした調査の結果）

https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/kosodate/011/0005/p032439_d/fil/houkokusyo.pdf